

第2領域 (その1)

「いかしつ守る環境活動者のグローバルな架け橋」

(持続的な人間活動と環境保全活動にかかわる人々の共通の理解と連帯の形成)

この領域は人々の生活と環境保全活動のバランスを考えることを目的としています。

地域の人々と学生の交流からごみ問題を考える

＜研究・活動名＞マレーシア移民集落における衛生環境改善のための環境認識研究
と学生ボランティア活動

＜代表者／団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 岩井雪乃
WAVOC主催「海外ボランティアリーダー養成プロジェクト(ボルネオ)」

マレーシア・サバ州・コタキナバル市において、急増しているフィリピン人移民集落でのゴミ堆積問題に対して、その改善のため4つの研究・活動を行っています。

- ①民族固有のゴミを含む環境認識のあり方及びゴミに対する行動選択の過程の解明
- ②ゴミ問題の改善を通じての移民集落の衛生環境と海岸環境の向上
- ③ゴミ問題に対する協働を通じてのサバ人と移民の関係改善
- ④マレーシアでの活動体験から「幸せ」を問いなおすメッセージを日本社会に対して発信

ごみの島から「人のつながり」の島へ再生

＜研究・活動名＞瀬戸内海・豊島をモデルとした自然環境・地域再生研究プロジェクト

＜代表者／団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科助教 切川卓也
豊島学(楽)会

戦後最大級の不法投棄事件が発生した瀬戸内海の“豊島(てしま)”をモデルとして、自然環境と地域再生に焦点を当てた研究を展開しています。

島が本来の姿で活力に満ちた姿を取り戻し、かつ自然の回復が併せて行われることを目的として、主に地域産品流通システム、市民活動型の簡易環境計測システムの開発、豊島共創グリーンマップシステムの構築を目指しています。

右ページ写真 上(3枚): マレーシア現地での活動風景(岩井プロジェクト)

下(3枚): 瀬戸内に浮かぶ豊島(てしま)の風景と活動(切川プロジェクト)

